

# ワイヤレス小型胎児モニターを開発

## JICA国際協力賞

# 原さん、尾形さん選出

国際協力機構(JICA)が国際課題解決に尽力した個人・団体をたたえる本年度の「JICA国際協力賞」に、香川大学名誉教授の原量宏さん(83)と、メロディ・インターナショナル(高松市)COOの尾形優子さんが選ばれた。原さんと尾形さんが共同開発したワイヤレスの小型胎児モニターが、途上国を中心に海外16カ国の医療現場で活用され、日本国内の離島や過疎地にも逆輸入の形で導入された点が評価された。県関係者の受賞は初めて。

同賞は2024年度に創設。本年度は共生社会実現に貢献する3個人・団体が選出され、1月21日に東京都内で表彰式が行われた。原さんは東京大医学部を卒業後、同大付属病院産婦人科に入局し、趣味である無線の知識を生かした分娩監視装置(CTG)の基礎原理を開発。00年から香川医科大(現香川大)医療情報部教授として出産環境の改善や医療のITネットワーク構築に尽力している。尾形さんは京都大工学部大学院を経て、1992年に香川へ移住してシステム開発企業に就職。産学官連携の電子カルテ事業に携わった際に医療のIT化が遅れている実情を知り、2002年に周産期の電子カル

## 途上国や離島医療に貢献



JICA理事長(左端)から表彰状を受け取った原さん(中央)と尾形さん＝東京都内

## 県関係者初

テを提供する会社を起業。15年には、同事業で知り合った原さんの力を借りてワイヤレス胎児モニターを開発するメロディ・インターナショナルを立ち上げた。共同開発したワイヤレスの小型胎児モニターは、超音波で胎児の心拍を測定するピンク色の機器と、母親

のおなかの張りを測る水色の陣痛計がセットになった「iCTG」。測定したデータは市販のタブレットに送信され、多言語対応のソフトウェアを通じて波形が確認できる。現在、ブータンやタイ、カンボジアといった交通網が発達しておらず、産科医がいる都市まで容易に行けない村や島の診療所などで使われており、日本国内の病院や自治体など133カ所にも導入。世界保健機関(WHO)推奨機器に選定されている。受賞を受けて原さんは「国内の産婦人科医が減少傾向にあり、母子の健康問題は途上国だけのものではない。今後もシステムを整えることで世界中の妊婦が安全に出産できるように支えたい」、尾形さんは「距離や貧困が原因で胎児が亡くなる世の中ではないけない。協力してくれた各国の政府や大学に感謝したい」と話した。